

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地												
大原簿記情報専門学校札幌校	昭和61年12月2日	篠原 建成	〒060-0806 北海道札幌市北区北6条西8丁目8番地1 (電話) 011-707-0088												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地												
学校法人大原学園	昭和54年4月1日	中川 和久	〒101-0065 東京都千代田区西神田1丁目2番10号 (電話) 03-3292-6266												
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士										
工業	工業専門課程	情報システム学科		平成16年文部科学省告示第十七号	-										
学科の目的	IT業界で必要となるプログラミング、システム開発の演習・実習およびコンピューターのシステム構成に関連した知識・技能などを修得するとともに、一般的に必要とされる、会計知識、マーケティング知識、パソコンスキルの修得を通じて自立した社会人の育成を目的とする。														
認定年月日	平成27年2月17日														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技								
2年	昼間	1,700時間	690時間	1,020時間	1,770時間	0時間	0時間								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数										
80人	85人	0人	4人	0人	4人										
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法(基準)秀、優、良、可、不可の5種 (方法)定期試験、中間試験、効果測定、課題の提出											
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月下旬～8月下旬 ■冬季:12月上旬～1月上旬 ■春季:3月下旬 ■学年末:3月31日		卒業・進級条件	(卒業)修業年限以上在学して、所定の授業時間数以上履修し、規定の授業科目及び単位を修得し、かつ卒業審査に合格した者 (進級)各学年において定める授業時間の履修及び単位の修得を行い、かつ出席状況等の学習姿勢も考慮の上、進級判定委員会にて審査を行う											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学習・進路の個別相談および保護者への連絡および通知		課外活動	■課外活動の種類 各種クラブ活動の大会参加  ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者にに関する令和3年5月1日時点の情報)											
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) IT業界等の一般事業会社  ■就職指導内容 全体指導によるレクチャー 個別面接トレーニングなど  ■卒業生数 27 人 ■就職希望者数 22 人 ■就職者数 21 人 ■就職率 95.5 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 77.8 %  ■その他 ・進学者数:1人 ・アルバイト:4人  (令和2年度卒業者にに関する令和3年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。          ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの          ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの          ③その他(民間検定等)</p> ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③	6人	5人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数												
基本情報技術者試験	③	6人	5人												
中途退学の現状	■中途退学者 1名 令和2年4月1日時点において、在学者70名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者69名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更(就職)、経済的な理由  ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による定期面談(本人および保護者)、適切な授業選択の助言		中途退学率	1%											
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ①試験による特別奨学生制度:がんばる人を支援するために「試験による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原独自の特別奨学生試験の結果に応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。 ②資格・クラブ活動による特別奨学生制度:がんばる人を支援するために「資格・クラブ活動による特別奨学生制度」を実施しています。この制度は、大原学園入学までに取得した資格や成績を一定のランクに認定し、そのランクに応じて入学金・授業料の全額または一部を免除するものです。														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無														
当該学科のホームページURL	<a href="https://school.o-hara.ac.jp/sapporo/">https://school.o-hara.ac.jp/sapporo/</a>														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先であるIT業界等の一般事業会社(情報処理職)に造詣の深い企業等と連携して教育課程の編成を行うことにより、専門的かつ実践的な知識・技術を修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②情報システムに関する業界・北海道エリアにおける動向に関して、教育課程編成委員会を通じて最新の情報を授業に反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

①位置づけについて

教務部の上位に教育課程編成委員会を設置し、企業等からの提言を参考にして本校の教育課程編成について協議策定するための機関として位置づける。

②意思決定の過程について

(ア) 学科の目的に基づき予め学内において現状の課題等を明確にした上で、教育課程編成委員会に提言を求める。

(イ) 委員会では企業等からの意見を参考に次年度以降の教育課程に関する改善案を策定する。

(ウ) 改善案について教育現場の責任者である校長、教務部長が承認することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
篠原 建成	大原簿記情報専門学校札幌校 校長		
渡辺 良憲	大原簿記情報専門学校札幌校 副校長		
佐々木 博幸	大原簿記情報専門学校札幌校		
小村 雅史	一般社団法人 北海道情報システム産業協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
佐藤 克彦	キーウェア北海道株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回開催(7月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年7月28日 17:00～17:50

第2回 令和2年12月8日 16:30～17:20

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

■ システム開発、プログラミング、リテラシーに関する選択授業の開発

- ①システム開発で利用されるドキュメントの作成技術に関して学生に求める質やレベルについて検討した。
- ②今後の卒業研究で作成される成果物についてのカリキュラム運営上、評価および学生のフィードバックについて検討した。
- ③ロジカルシンキングを行う習慣を身に付けさせるために技術動向をテーマとしたグループワークを導入する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ① 工業分野における実習・演習は、企業等との連携の下、学内で行なわれる学習科目が多いことを考慮して、企業・業界団体から該当企業に所属するプログラマー・システムエンジニアを講師として派遣し、実習・演習の組立に協力を得られる企業・業界団体を選定している。
- ② 企業・業界団体から講師として派遣されるプログラマー・システムエンジニアによる実習・演習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術の修得と、社会人としての意識改革を実現する。
- ③ 企業から実習・演習の授業内容、手法に関して具体的な助言を仰ぎ、学生の知識・技術の修得状況に対して実践で活かせるレベルか否かを企業等の実務の視点から評価を仰ぐ。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

卒業研究、システム開発演習、JAVA言語応用、システム設計演習の授業運営に関して企業と協定書を締結、打合せを行い、下記の4点について講義内容の質向上のために連携している。

- ① 実習授業内容構築への事前の打ち合わせによる助言、資料提供
- ② 当該実習授業における評価ポイントの確認
- ③ 授業方法に関する教員への指導
- ④ 学生の成果物評価による学修習熟状況の評価

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ITキャリアデザインⅡ	マナー指導および企業研究・業界研究によって企業理解を深める	株式会社デジック
ITキャリアデザインⅣ	企業が求める人材理解と就業後の仕事理解を深める	株式会社デジック
卒業研究開発Ⅰ	授業で学んだ知識を活用したITシステムの企画の立案を行う	株式会社デジック
卒業研究開発Ⅱ	企画立案したテーマの設計技法への応用実践を行う	株式会社デジック
卒業研究開発Ⅴ	プログラミングおよびテスト、企業へのプレゼンテーションを行い評価を受ける	一般社団法人北海道情報システム産業協会 キーウェア北海道株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記のとおり教員研修の環境を整える。「大原学園 教職員研修規程」の目的に定めるとおり、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるための環境を整備し、所属長の指示または本人の意思により、公平に研修等を受講する機会を与えるものとする。校内、校外において学園が企画する研修は下記のとおりとなる。

- ① 教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
- ② 大学教授等専門分野に特化した講師として招いた研修会の実施
- ③ 学内に設置される附帯教育講座を利用した自己啓発

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「AWS Academy 認定講師トレーニング（研修）」（連携企業等：アマゾン ウェブ サービス ジャパン 株式会社）

期間：令和2年12月21日（月）・22日（火） 対象：情報システム学科教員

内容：AWS Academyの指導においてや学生に伝える際のポイントなどについて触れつつ、参加者の質疑応答を行う。

研修名「WinActorによるRPAの事例紹介」（連携企業等：北海道情報システム産業協会）

期間：12月18日（金） 対象：情報システム学科教員

内容：RPAツールの導入と活用に関するポイントについて。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「コーチング(知識・スキル)の理解と利活用」(連携企業等:株式会社リクルートマーケティングパートナーズ)

期間:令和2年12月17日(木) 対象:情報システム学科教員

内容:教職員に求められる今後のスキルについて次の①~③を学ぶ研修。①学び方の変化と背景(ティーチングとラーニングとコーチング、変化の背景)、②指導力アップデートのススメ(コーチングの目的ゴール、今日のコーチング定義、理解促進ワーク)、③まとめ(気づきの整理)。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「北海道情報システム産業協会 DXシンポジウム」(連携企業等:北海道情報システム産業協会)

期間:令和3年7月7日(水) 対象:情報システム学科教員

内容:デジタル(RPA、AI、顔認証、クラウドなど)を活用した事例からDXの可能性について探る。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「いま、求められている・求めたい教育の間で -新型コロナ下の状況をふまえて-」

(連携企業等:公益社団法人 北海道私立専修学校各種学校連合会)

期間:令和3年8月3日(火) 対象:情報システム学科教員

内容:コロナ禍において、児童・生徒・学生に対して行うべき教育内容について、世界各国、教育大の取り組みやICT教育の現状を学ぶ研修。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員を設置して下記に示す評価項目から評価する。課題の残る評価結果については、課長職以上の管理職より改善計画を策定し、次年度以降の学校運営に反映させ改善を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2) 学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3) 教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。 ⑦育成目標に向け授業を行なう事ができる要件を整えた教員を確保しているか。 ⑧成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 ⑨資格取得の指導体制はあるか。
(4) 学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。
(5) 学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6) 教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8) 財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。

(9) 法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

今年度の学校関係者評価委員において、コロナ禍におけるオンライン授業への対応、人間関係構築を目的とした学校行事の開催方法など多くの助言を頂いた。また、社会・企業の考えるコンプライアンス案件への専門学校にて必要な指導をご意見頂いた。コロナ禍を経験した学生が入学するため、オンライン授業の質の向上へ向けた教員側の知識・技能の向上と、事例に応じたコンプライアンス教育を実施していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
森永 修	イオン北海道株式会社	令和3年9月1日～令和5年3月31日(1年6ヶ月)	企業等委員
石川 智寛	学校法人札幌国際大学 札幌国際大学短期大学部	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	大学教授
島元 宏忠	税理士法人 シマ会計	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
小村 雅史	一般社団法人 北海道情報システム産業協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
佐藤 克彦	キーウェア北海道株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
登坂 裕幸	合同会社 ヒロコーポレーション	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生
天川 晶寛	キーウェア北海道株式会社	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法: ホームページ

<https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

公表時期: 令和3年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ①実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。
- ②また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。
- ③情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①学校の概要 ②目標・方針・特色 ③所在地、連絡先 ④学校の沿革
(2) 各学科等の教育	①カリキュラム、時間割、目指す資格 ②検定、資格取得・検定試験合格実績 ③卒業生の進路
(3) 教職員	各学科の担当教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金、学費減免等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ

<https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/>

## 授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ITキャリアデザインⅠ	面接試験で求められるビジネスマナーの基礎を学ぶ	1前	30	1	○	△		○		○		
2	○			ITキャリアデザインⅡ	マナー指導および企業研究・業界研究によって企業理解を深める	1後	90	3	○			○		○		○
3	○			一般教養Ⅰ	一般常識（数学・現代文）および就職適性検査の演習を行う	1前	30	1		○		○		○		
4	○			IT基礎知識Ⅰ	基本情報技術者試験のシラバスに基づく基礎授業および演習を行う	1前	90	3	○	△		○		○		
5	○			IT基礎知識Ⅱ	基本情報技術者試験午前問題の分野別問題の演習及び解答解説を通して知識の理解を深める	1前	90	3		○		○		○		
6	○			情報技術者試験（レベルⅡ）知識	情報処理技術者試験（レベルⅡ）の演習および解説を行う	1前	30	1		○		○		○		
7	○			コンピュータリテラシー	コンピュータの利用技術の習得を行う	1前	30	1	○	△		○		○		
8	○			HTML/CSS	HTML/CSSを利用した実習によりWebサイト構築の実践力養成を図る	1前	30	1	△		○	○		○		
9	○			JavaScript	JavaScriptを利用したプログラミングの基礎スキルの習得を行う	1前	60	2	△		○	○		○		
10	○			データベース	SQLの基本文法とリレーショナルデータベースの設計と実装を学ぶ	1前	30	1	△		○	○		○		
11	○			Python	Python3の基本文法とプログラムの実装を行う	1前	90	3	△		○	○		○		
12	○			Javaプログラミング1	Javaの基本文法とオブジェクト指向プログラミングの基礎を学ぶ	1後	30	1	△		○	○		○		

13	○		フロントエンドフレームワーク	Vue.jsの基本文法とシングルページアプリケーションの作成方法を学ぶ	1後	90	3	△		○	○	○					
14		○	Javaプログラミング2	Javaによるオブジェクト指向プログラミングを学ぶ	1後	60	2	△		○	○	○					
15		○	Excel基礎	Excelの理解を通してPC上での作業の基本を習得する	1後	60	2	△		○	○	○					
16		○	Webサイト演習1	HTML・CSSによるレイアウト手法を理解し、Webサイト公開方法を学ぶ	1後	90	3	○		△	○	○					
17		○	サーバーサイドフレームワーク	PHPサーバーサイドフレームワークLaravelを使用したサーバーサイドアプリケーションの作成方法を習得する	1後	90	3	△		○	○	○					
18		○	IT基礎知識Ⅲ	基本情報技術者試験午後問題の考え方、解法の基礎を学ぶ	1後	90	3	○	△		○	○					
19		○	IT基礎知識Ⅳ	基本情報技術者試験の午後問題の分野別の理解を深める	1後	90	3	○	△		○	○					
20		○	情報技術者試験（レベルⅢ）演習	情報処理技術者試験（レベルⅢ）の問題演習を行い知識応用力を身に付ける	1後	90	3	△	○		○	○					
21		○	MOS対策実習	マイクロソフト オフィス スペシャリストの取得レベルの技術を習得する	1後	60	2	△		○	○	○					
22		○	ITニーズの研究1	ITシステムの企画立案、作成の実習を通してITの企業ニーズを学ぶ	1後	60	2	△	○		○	○					
23		○	ITリテラシーと処理技術1	企業内ITリテラシーの重要性の理解とシミュレーションを通して理解を深める	1後	60	2	△	○		○	○					
24	○		ITキャリアデザインⅢ	企業が求める人材理解と就業後の仕事理解を深める	2前	60	2		○		○	○					○
25	○		ビジネスマナーⅠ	入社後に求められるビジネスマナーの理解と実践を行う	2前	30	1	△	○		○	○					
26	○		卒業研究開発Ⅰ	授業で学んだ知識を活用したITシステムの企画の立案を行う	2後	90	3		△	○	○	○					○
27	○		卒業研究開発Ⅱ	企画立案したテーマの設計技法への応用を実践する	2後	90	3		△	○	○	○					○

28	○		卒業研究開発Ⅲ	企画の詳細設計および設計に基づくプログラミングの実践を行う	2後	90	3		△	○	○	○	○
29	○		卒業研究開発Ⅳ	設計に基づく実装および単体テストの実施を行う	2後	120	4		△	○	○	○	○
30	○		卒業研究開発Ⅴ	プログラミングおよびテストの実施、有識者へのプレゼンテーション準備を行う	2後	120	4		△	○	○	○	○
31		○	IT基礎知識Ⅴ	基本情報技術者試験午後試験の問題演習および解答解説による応用力を身に付ける	2前	60	2	○	△		○	○	
32		○	ITドキュメント作成技術	ITに関連するドキュメントスキルを学び演習を行う	2前	60	2	○	△		○	○	
33		○	サーバーサイドJava	Enterprise用途のJavaスキルの習得と実践力を習得する	2前	90	3	△		○	○	○	
34		○	PHP	PHP基本文法とサーバーサイドアプリケーションの設計と実装方法を学ぶ	2前	90	3	△		○	○	○	
35		○	JavaWebシステム開発	グループによるJavaWeb開発を通してチーム開発に関する実習・演習を行う	2前	90	3	△	○		○	○	
36		○	モバイルアプリケーションプログラミング	モバイルアプリケーション開発に必要なスキルの習得を行う	2前	90	3	△		○	○	○	
37		○	ITオフィスソフト実習	Excel (VBA) を利用した作業の自動化、生産効率のアップの方法を習得する	2前	90	3	△		○	○	○	
38		○	サーバー構築	Linux、WindowsOSを活用したサーバーの構築およびサービスプログラムの設定方法を習得する	2前	90	3	△		○	○	○	
39		○	ネットワーク構築	ネットワーク設計に必要な知識を習得する	2前	90	3	△	○		○	○	
40		○	IoTシステム基礎	IoTシステムの基礎を習得し、センサーおよびアクチュエーターによる演習を行う	2前	90	3	△		○	○	○	
41		○	C言語基礎 1	C言語の基本文法とCUIベースプログラムの作成・ネットワークプログラミングを行う	2前	60	2	△		○	○	○	
42		○	ITセキュアプログラミング	プログラミング言語を利用したセキュリティリスクを学びプログラミング時の注意点を学ぶ	2前	30	1	△		○	○	○	

43	○	LinuxOS 1	Linuxの概要と基本コマンド、シェルプログラミングの基本を習得する	2前	30	1	△	○	○	○							
44	○	LinuxOS 2	シェルプログラミングの基本を学び、サーバーシステム管理の自動化を習得する	2前	60	2	△	○	○	○							
45	○	ネットワーク・サーバーセキュリティ運用	サイバーセキュリティの基礎を習得し、ネットワーク設計に活用できる	2前	90	3	△	○	○	○							
46	○	AI基礎プログラミング	Pythonによる最低限のライブラリで実装するAIシステムについて学ぶ	2前	90	3	△	○	○	○							
47	○	クラウドコンピューティング	AWSを利用したクラウドコンピューティングの実装について学ぶ	2前	90	3	△	○	○	○							
48	○	オブジェクト指向分析設計	ユースケース駆動設計によるオブジェクト指向分析・設計の実習を行う	2前	60	2	○	△	○	○							
49	○	ITキャリアデザインⅣ	職業適性と自己理解を行いキャリアアップの重要性を理解する	2前	60	2	○	○	○	○	○						
合計				49科目	3,480単位時間(116単位)												

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
<p>(試験等)</p> <p>1. 学業成績は、授業科目ごとに行う定期試験のほか、授業科目により中間試験や授業内に行う確認テスト、課題の提出等により評価する。なお、本校において必要と認めた場合に限り、追試験または再試験を行うことがある。追試験は事故等やむを得ない理由により試験等を受験しなかった者に対し行う。再試験は試験等受験の結果、不合格となった者に対して実施する。</p> <p>2. 各授業科目の成績評価方法については別に定める。</p> <p>(学業成績)</p> <p>1. 学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の5種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。</p> <p>2. 授業科目の成績は、前項の5種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準によりGP (Grade-Point) を与える。</p> <p>(単位の授与)</p> <p>授業科目を履修し、各科目の成績を判定の上、秀・優・良・可を取得した学生には所定の単位を与える。</p> <p>(卒業の認定)</p> <p>1. 卒業の認定は修業年限以上在学して、下記に定める授業時間数以上履修し、規定の授業科目および単位を修得し、かつ、卒業審査に合格した者について校長が行う。 情報システム学科 1,700時間(62単位) □</p> <p>2. 前項に規定する卒業の認定は、最終学年の終わりに行う。</p>	1学期の授業期間	22週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。